

佐賀市営バス事業新経営計画

(令和元年度～令和5年度)



佐賀市交通局

令和元年6月

目 次

はじめに	1
I 「佐賀市営バス事業新経営計画」の策定	
1 計画の目的	2
2 計画期間	2
3 収支計画	2
II 利用者の増加に向けた取組	
1 ICカードを活用した各種サービスの継続、拡充	3
2 ワンコイン・シルバーパスの販売促進	3
3 バスの乗り方教室の継続実施	3
4 高齢者ノリのりバス事業（高齢者運転免許証自主返納支援事業）	3
III 安心安全への取組	
1 ドライブレコーダーの活用	4
2 運輸安全マネジメント安全管理規程の策定	4
3 女性にやさしいバスに向けて	4
4 インバウンド（訪日外国人観光客）への「おもてなし」	4
IV 利用しやすい路線バスをめざして	
1 バスロケーション・システムの活用	5
2 バス待ち環境の向上	5
3 ノンステップバスの導入	6
4 ダイヤ改正の実施	6
5 バスの運行系統の表示	7
6 モニター制度の充実	7
7 公共車両優先システム（PTPS）の導入の要請	7
V 環境への配慮	
1 新バイオディーゼル燃料の使用	7
2 エコドライブの推進	8

VI 市営バス維持のための方策	
1 運賃改定	8
2 運転士の確保	8
3 組織の活性化	8
VII 今後の課題	
1 佐賀駅バスセンターの乗り場の改善	9
2 交通局庁舎の建替え	9
VIII 計画の進捗管理	10

はじめに

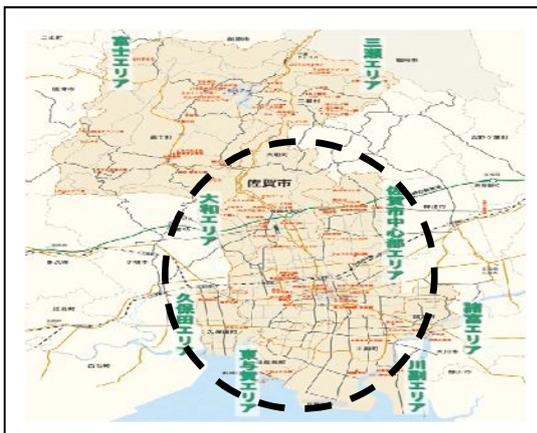
公営交通事業を取り巻く経営環境は、少子高齢化に伴う人口の減少などの影響で、ますます厳しい時代を迎えています。市営バスは、昭和11年の創業後、82年余り佐賀市を中心に市民の移動手段の一翼を担ってまいりました。この間、年間の利用者数は昭和43年の1,500万人をピークに平成17年度までは減少を続け、その後は260万人台を推移してきました。近年は、佐賀空港線やゆめタウン線等の乗客数が増加およびフリー定期券の導入の効果で増加し、平成30年度実績で年間利用者数は約325万人になっています。

【乗合収入と利用者数の推移】



平成17年と平成19年の市町村合併により佐賀市域の拡大、および佐賀市域以外の路線の廃止により、現在、市営バスは、佐賀市内のみを運行しています。バス路線は、佐賀市の南域を中心に26路線あり、車両は71台保有しています。

運行エリア



創業80周年復刻カラーバス



I 「佐賀市営バス事業新経営計画」の策定

1 計画の目的

この計画は、今後も公営バス事業者としてその経営を維持できるよう、中期的な視野での投資・財政計画に基づく経営を推進するとともに、「第2次佐賀市総合計画」が掲げる「市民生活を支える総合交通体系の確立」を実現するため、佐賀市交通局として取り組むべき施策を定めるものです。

2 計画期間

計画期間は、令和元年度から令和5年度までの5年間とします。

3 収支計画

平成22年3月議会で議決された「佐賀市自動車運送事業経営健全化計画」（平成21年度～平成25年度）、および交通局独自で策定した「佐賀市営バス事業経営計画」（平成26年度～平成30年度）の取組の結果、平成30年度決算時点で資金不足はなく、繰越利益剰余金を約2億3700万円計上しています。本計画最終年度である令和5年度まで、資金不足および累積欠損金は発生せず健全な経営を計画しています。

【収支計画表】（令和元年度～令和5年度）

（単位：千円）

区分	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
事業収益	1,111,304	1,104,627	1,102,327	1,102,053	1,101,566
■うち乗合旅客収益	678,831	685,098	687,698	690,311	692,937
うち運賃収入	517,401	519,988	522,588	525,201	527,827
うちシルバーパス助成額	161,430	165,110	165,110	165,110	165,110
事業費	1,140,365	1,111,401	1,128,442	1,098,322	1,112,390
うち職員給与費	662,133	657,000	659,000	661,000	663,000
うち退職給付費	61,888	57,856	76,822	46,702	60,770
事業収支	▲29,061	▲6,774	▲26,115	3,731	▲10,824
資本的収入	80,981	78,910	78,910	78,910	78,910
資本的支出	95,480	95,000	95,000	95,000	95,000
単年度資金過不足額	1,314	35,134	▲5,280	16,038	▲32,530
累積資金剰余額	380,555	415,689	410,409	426,447	393,917

II 利用者の増加に向けた取組

1 ICカードを活用した各種サービスの継続、拡充

平成29年2月に、全国相互利用可能なICカード「nimoca」を全車両に導入しました。その後、平成29年10月に、同一バス停留所での60分以内の乗換えに対し、最大50円の運賃を値引きする乗継割引「のりわり」を開始しました。また、平成30年3月に、「nimoca 定期券」サービスを導入し、平成30年4月から中高生限定のフリー定期券「ノリのりワイド」や時間帯限定のフリー定期券「昼のりワイド」の利用を開始しました。

今後は、令和元年度に、ワンコイン・シルバーパスのICカード化（希望者への交付）も予定しており、その他にもICカードの特性を生かした新規商品の開発を図り、新規利用者の開拓に努めます。

2 ワンコイン・シルバーパスの販売促進

65歳以上の高齢者の外出支援を目的としたワンコイン・シルバーパスを販売しており、特に70歳以上の佐賀市在住者については、1年間のパス（定価16,000円）購入に対して、佐賀市から15,000円の助成金があり、自己負担1,000円で購入できます。ワンコイン・シルバーパスの助成金は、市営バスにとって貴重な収入源になっています。

現在、市営バスを利用する多くの高齢者はこのパスを利用しており、今後も健康寿命の延伸に向けた取組として、ワンコイン・シルバーパスの販売を推進し、高齢者の市営バスの利用促進を図っていきます。

■ワンコイン・シルバーパス（70歳以上）の販売実績

年 度	H25 年度	H26 年度	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度
販売枚数	10,515 枚	11,645 枚	11,356 枚	10,515 枚	10,425 枚	10,484 枚

3 バスの乗り方教室の継続実施

バスを利用したことのない方や、バスを利用したいが、乗り方がわからない方向けに「バスの乗り方教室」を実施しています。現在の対象者は、主に市内の小学1年生や特別支援学校の児童、生徒や地域自治会などであり、今後は対象者を拡大し、より多くの方に市営バスの利用を呼びかけていきます。

4 高齢者ノリのりパス事業（高齢者運転免許証自主返納支援事業）

平成23年10月に、増加傾向にある高齢者の交通事故の減少を目的に、65歳以上の運転

免許証自主返納者を対象とした「高齢者運転免許証自主返納支援事業」を開始しました。当初は、ワンコイン・シルバーパスを、1回に限り半額で購入できる制度でしたが、平成26年10月に、継続的なバス利用の推進を目的として、市営バスの運賃が半額（下限100円）となる「高齢者ノリのりパス」を希望者に無料交付する制度へ変更しました。「高齢者ノリのりパス」の有効期限は1年ですが、継続を希望する方に対しては年度更新が可能です。70歳以上の佐賀市在住者を対象としたワンコイン・シルバーパスの助成対象年齢に達するまでの補完事業として位置付けています。

Ⅲ 安心安全への取組

1 ドライブレコーダーの活用

市営バスでは、ドライブレコーダー（主にデジタルタコグラフ一体型ドライブレコーダー）を平成28年度に全車両に完備しました。ドライブレコーダーは、運行中の路線バスの車内車外の映像を記録し、路線バス運行時の安全の確保に活用しています。また、デジタルタコグラフでは、急加速や急減速、アイドリングストップなどの実施の有無を記録しており、エコドライブの推進に役立っています。

2 運輸安全マネジメント安全管理規程の策定

過去の運輸事業における重大事故の教訓から、各運輸事業が経営トップのリーダーシップの下、組織全体が一体となった安全管理体制の構築や安全に関する取組が求められています。今後、国の「運輸安全マネジメント制度」に沿った安全管理規程を策定し、運輸安全委員会の設置を検討します。

3 女性にやさしいバスに向けて

女性、特に子育て世代の方が利用しやすい安全安心な公共交通機関の実現に向けて、まずは妊婦の方を対象とした割引制度の導入を検討します。

4 インバウンド（訪日外国人観光客）への「おもてなし」

九州佐賀国際空港（佐賀空港）の国際便の増加に伴い、インバウンド（訪日外国人観光客）が増加しており、入国後、最初に利用される公共交通機関である空港リムジンバスでの接客接遇が、インバウンドの佐賀市に対するイメージを左右します。空港リムジンバスに添乗している通訳スタッフの行動指針の策定、ICカードでの運賃支払いの促進、外国語表示の充実など「おもてなし」の対応を心掛けていきます。

IV 利用しやすい路線バスをめざして

1 バスロケーション・システムの活用

路線バスは定時運行を求められますが、道路事情や天候による影響が大きく、定時制の確保が非常に困難な状況で、利用者の方へのバスの運行状況の案内に苦慮していました。そこで、運行中のバスの位置情報や運行情報をスマートフォン等でリアルタイムに検索できる「バスロケーションシステム」を、平成30年3月に導入しました。今後も本システムをより利用しやすいように、操作性の向上やわかりやすい表示への改善に努めます。

2 バス待ち環境の向上

現在、市営バスのバス停留所は692箇所あり、毎年バス停上屋やベンチの設置数を増やし、利用者のバスを待つ環境の改善を進めています。バス停上屋やベンチの設置については、歩道の幅員の確保が必要なため、設置可能なバス停留所が限定されます。また、バス停上屋は昭和50年代から設置を開始しており、経年による劣化が目立つものもあるため、建替えが必要な箇所もあります。今後も、利用状況や要望等を踏まえ、バス停上屋及びベンチの設置に努めます。

■上屋整備計画（H30年度は実績値）

年 度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
設置総数	162	164	166	168	170	172

■ベンチ整備計画（H30年度は実績値）

年 度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
設置総数	253	257	261	265	269	273

バス停上屋



佐賀市産材ベンチ



3 ノンステップバスの導入

市営バスでは、平成 13 年に県内初のノンステップバス（超低床バス）を導入し、以降も、国、県、市の補助金を活用しながらその導入を進めています。ノンステップバスには、スロープが装備されており、車椅子利用者も安心して利用ができるため、障がい者の外出支援の役割を担っています。現在は「バリアフリー新法」の基本方針で定められた路線バスにおける導入率 70% を超え、約 77%（55 両／71 両）の状況であり、今後は、空港リムジンバス 5 台を除いた全車両のノンステップバス化を目指します。

■ ノンステップバス導入計画（H30 年度は実績値）

年 度	H30 年度	R 元年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度
ノンステップバス 導入台数	55	60	61	62	63	64
全車両台数 ※リムジンバスを除く	66	64	64	64	64	64
実質導入率	83.3%	93.8%	95.3%	96.9%	98.4%	100%

ノンステップバス



車内の様子



4 ダイヤ改正の実施

乗合バスには、定時性の確保が求められておりますが、交通量や道路状況の変化等により当初の設定時刻と差異が生じることがあります。今後は、バスロケーションシステムで蓄積した運行時刻のデータを活用し、できるだけ遅れ運行を発生させないダイヤへの改正を実施します。

また、運転士不足や働き方改革に対応するために、利用実態に応じた運行便数への調整を検討します。

5 バスの運行系統の表示

佐賀駅バスセンターに乗合バスの乗り入れを行っているバス事業者は4社あり、乗合バスの行先表示は、各社独自のルールで運用しています。番号の表示の有無や、使用している番号が系統番号または行先番号を使用するなど、利用者にとってわかりづらい面があります。今後は、バス利用者の利便性の向上のため、行先表示の統一化を目指します。

6 モニター制度の充実

市営バスの利用者を対象に公募し、5名の方に平成30年10月から半年間、佐賀市営バスのモニターとして様々な意見をいただきました。モニター制度は、利用者の方の目線での貴重な情報源になりますので、市営バスのサービスの改善に繋がる貴重なツールになっております。今後は、より多くの方からのご意見を集められるように、工夫を凝らしたモニター制度の実施を図ります。

7 公共車両優先システム（PTPS）の導入の要請

公共交通機関は、利用者から定時運行を求められています。しかしながら、路線バスは交通渋滞などの外的要因を多分に受けるため、定時運行が困難な路線バスなどの公共交通が、道路上を優先的に通行できるように信号機等を制御する、公共車両優先システム（PTPS）の導入を関係機関に要請します。PTPSの導入による効果は、路線バスの定時性の確保、バス利用者の利便性の向上、交通渋滞の緩和、自家用車利用者から路線バス利用へのシフトによる二酸化炭素排出量の減少などがあげられます。

V 環境への配慮

1 新バイオディーゼル燃料の使用

佐賀市は、平成22年2月に『環境都市宣言』を行い、地球温暖化やゴミ減量化対策として、家庭などから出る廃食用油（天ぷら油）を回収、精製し、バイオディーゼル燃料として再利用するリサイクル事業に取り組んでいます。

市営バスでは、佐賀市の環境部門と連携しバイオディーゼル100%燃料を使用したバスの運行を、平成24年4月に使用を開始し、平成30年度末まで、合計約230キロリットルを使用しています。ただし、現在使用しているバイオディーゼル燃料は、古い型式のディーゼルエンジンにしか使用できないため、今後は、コモンレール式のエンジンに使用可能な新バイオディーゼル燃料への変更を予定しています。

2 エコドライブの推進

デジタルタコグラフを活用して、日々の運転業務でエコドライブの実施状況を個人ごとに数値化しています。このデータを、運転士に対し、毎月公表しています。運転士各自が、省エネ運転を実施できているかどうかを自覚し、環境問題に配慮するよう心掛けています。

VI 市営バス維持のための方策

1 運賃改定

市営バスでは、平成26年4月に消費税5%から8%への税率変更に伴う運賃改定を行いましたが、輸送コストの増加に伴う運賃改定（本改定）は、平成9年12月以降実施していません。令和元年10月に消費税率が8%から10%に変更された場合は、平成26年4月と同様の消費税上昇分のみを転嫁した運賃改定を予定しています。今後は、経営状況を見極め、必要に応じて増収を目的とした本改定の実施を検討します。

2 運転士の確保

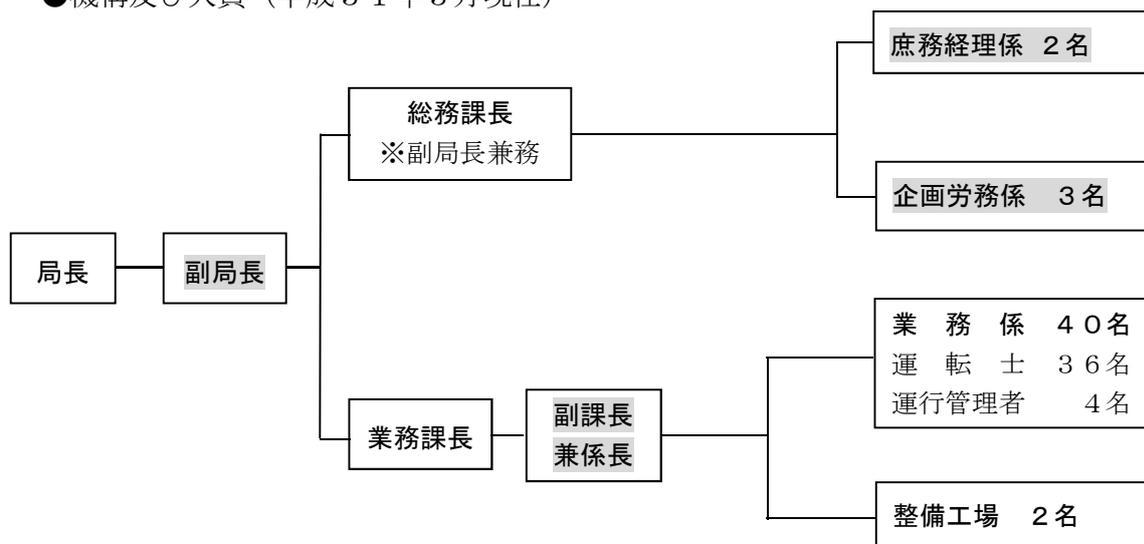
現在バス業界では、労働人口の減少及び若年層の大型二種免許取得者の減少などにより、バス運転者の不足に悩まされています。市営バスも、近年は運転士の確保が困難な状況であり、大型二種免許を所有していない45歳未満の人を対象とした「大型二種免許取得支援制度」を平成29年7月に開始しました。

平成30年度までに、この制度を活用して、6名の嘱託運転士を採用しており、一定の効果が現れています。今後も継続して運転士の確保に努め、現在の業務量に対応できる人材の確保に努めます。

3 組織の活性化

市営バスでは、平成26年度から嘱託職員（運転士）を対象とした正規職員への内部登用採用試験を開始し、平成30年度まで合計10名を採用しています。現在の正規職員の運転士の平均年齢は50歳を超えており、今後も退職者の補充や市他部局への配置転換等の人事異動に伴う正規職員の内部登用試験を継続して実施し、組織の活性化、運転士の若返りを目指します。

●機構及び人員（平成31年3月現在）



※網掛けは本庁との併任職員

- ・ 管理者 1名
- ・ 正規職員数 50名〔内訳 運転士36名、整備士2名、運行管理者等5名、併任職員7名〕
- ・ 嘱託職員数（運転士） 61名

Ⅶ 今後の課題

1 佐賀駅バスセンターの乗り場の改善

佐賀市は平成24年3月に、計画期間を平成23年度から平成32年度とする「佐賀市公共交通ビジョン」を策定しており、そのなかで、本市の基幹的な公共交通機関はバスであるとし、その利便性、効率性を高めるために事業者が取り組むべき施策が示されています。その中で、佐賀駅バスセンターの乗り場について触れられており、現在のバス事業者ごとに分かれている乗り場を、利用者の利便性向上のため、行き先別乗り場への改善を、施設の所有者である佐賀市や他のバス事業者と協議し実現を目指します。

2 交通局庁舎の建替え

市営バスの庁舎は、鉄筋コンクリート3階建てで、昭和41年2月に完成し、築53年を経過しています。施設の老朽化も目立っており、バリアフリーにも対応していないため、建替えの必要性に迫られています。

市営バスの路線は、佐賀駅バスセンターを中心としているため、回送コストを考慮すると、現在の場所での建替えが最適であると判断しています。なお、建替えにあたっては、交通局単独での建設を含め民間資金の活用も視野に入れ、新庁舎の建築に向け関係機関と協議し、早期の実現

に努めます。

市営バス庁舎



市営バス車庫



Ⅷ 計画の進捗管理

本計画の各種取組や収支状況については、毎年度の進捗状況を佐賀市交通局のホームページに公表します。